

第5章 全体構想

(1) 都市計画マスタープラン見直しの方針

都市計画マスタープランを策定するにあたり、都市づくりの視点及び目指すべき都市の姿を明らかにしておくことが重要です。また、それらを各種計画と有機的に関連づけ、都市計画の各部門、各地域の計画に十分反映させる必要があります。

また、少子高齢化や幕別地区における人口減少の急速な進行による人口構造の変化や、自然災害の発生に対する安全・安心を確保する必要性の高まりなど、まちの課題に対応するため、国の施策動向を踏まえ、持続可能な開発目標（SDGs）^{※17}への寄与を意識しながら「幕別町都市計画マスタープラン」を見直すものとします。

なお、幕別町の最上位計画である第6期幕別町総合計画では、「みんながつながる 住まいる まくべつ」を町の将来像^{※18}として、全ての町民が幸せな笑顔あふれるまちを創造し、「住み続けたい」「住みたい」幕別町であることを目指す、としています。都市計画マスタープランを見直す際には、これらの将来像と基本目標も踏まえるものとします。

○第6期幕別町総合計画の将来像と基本目標

将来像：みんながつながる 住まいる まくべつ

- 基本目標：1. 協働と交流で住まいる
2. 特色ある産業で住まいる
3. 人がいきいき住まいる
4. 豊かな学びと文化、スポーツで住まいる
5. 自然との調和で快適な住まいる

¹⁷ 持続可能な開発目標（SDGs）

2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するために、17のゴール・169のターゲットから構成されています。都市計画マスタープランでは以下の取組と目標などに寄与すると考えられます。

・弱者への配慮		・健康・福祉の維持	
・水資源の確保		・産業振興	
・持続可能なまちづくりの推進		・気候変動対策	
・陸域生態系の保護と持続可能な利用の推進		・まちづくりに取り組む組織づくり ・パートナーシップの活性化	

¹⁸ 町の将来像

「みんながつながる 住まいる まくべつ」は、すべての町民が幸せな笑顔あふれるまちを創造し、「住み続けたい」「住みたい」幕別町であることを目指し定められたものです。

(2) 都市づくりの視点

前章で整理した都市づくりの課題と都市計画マスタープラン見直しの方針から次のとおり都市づくりの視点を整理します。

●健全な市街地を維持する効率的な都市づくり

近年における日本の人口は減少に転じており、幕別町においても人口減少とさらなる少子高齢化の進行が予想され、市街地の空洞化が懸念されます。

今後は、都市生活の拠点に都市機能を適正に配置・誘導していくとともに、活気に満ちた商店街づくりを行うことで、空き家や低・未利用地^{※19}の利活用を促進するなど、健全な市街地を維持する効率的な都市づくりを進める必要があります。

●利便性の高い公共交通の確保と人にやさしい都市づくり

市街地には通勤、通学及び買物など町民の生活交通を支えるコミュニティバスが運行するものの、さらなる利便性の向上が求められており、快適な公共交通環境を確保するための取組を行っていく必要があります。

既成市街地の都市計画道路は整備率が高いことから、今後はユニバーサルデザインなど人にやさしい空間づくりを行っていく必要があります。

●持続可能な行政サービスの提供による都市づくり

帯広市のベッドタウンとして市街地が拡大して人口が増加し、これに伴い公共施設やインフラ施設を整備してきましたが、これら公共施設等は昭和 50 年代に整備されたものが多いため、今後は老朽化の進行により維持更新に係る費用の増大が見込まれます。

このため、公共施設の規模及び配置の最適化を図ることにより、町民に持続可能な行政サービスを提供していくことや、長期的視点に立った公共施設やインフラ施設の適正な維持管理・更新を行う必要があります。

¹⁹ 低・未利用地

本来なら、建築物などが建てられ、その土地や周辺地域にふさわしい利用がされるべき土地が、未利用な空き地であったり、利用程度が周辺地域に比べ著しく劣っている状態の土地をいいます。

●自然環境の保全・活用と災害に強い都市づくり

市街地の周囲には幾筋の川が流れる豊かな大地が広がっており、豊かな自然と市街地が調和したゆとりと潤いのある都市づくりを行ってきていますが、近年では地球温暖化がもたらす台風の大型化や集中豪雨など異常気象により、人的・経済的被害が多発しています。地球温暖化の原因となっている二酸化炭素などの温室効果ガスは、地球規模での排出削減が求められていることから、本町においても循環型社会の形成と資源の有効活用及び省エネルギー等の持続可能な循環型まちづくりを進める必要があります。

また、自然と調和した低炭素型都市構造^{※20}への転換と同時に水害や地震などの災害事象ごとに対応できる避難所の確保など、災害に強い都市づくりを行う必要があります。



幕別運動公園

²⁰ 低炭素型都市構造

社会に多大な影響をもたらす地球温暖化の原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素（CO₂）の大部分が都市部において発生していることを踏まえ、公共交通の充実、再生可能エネルギーの活用、市街地のコンパクト化などにより二酸化炭素の発生を抑えることで、環境負荷の低減を図る都市構造のことを言います。

(3) 目指すべき都市の姿

幕別町には、母なる川十勝川、清流札内川、サケのふるさと猿別川、野鳥が群れ飛ぶ途別川が流れ、平地や段丘が広がる豊かな大地では、畑作や酪農を中心とした農業が盛んに行われるなど、自然環境に恵まれたまちです。また、先人のたゆまぬ努力を礎とし、帯広圏の住宅供給地、あるいは北海道の中心食料供給基地などの役割を担ってこれまで発展してきました。

恵まれた自然環境を都市に取り込みながら、これまで発展してきた「まち」を維持して、多くの町民がふれあい、あたたかい地域社会をつくり、活力と魅力あふれる都市の姿を目指し、将来都市像を次のとおり定めます。

「都市と自然が融合する 持続可能な調和都市 まくべつ」

また、目指すべき都市の姿の実現のため、3つのまちづくりの目標を設定します。

＊ ＊ 3つのまちづくりの目標 ＊ ＊

●幕別地区と札内地区がともに持続するまちづくり

- ・ J 駅及び拠点となる公共施設周辺については、適切な都市機能を誘導し、持続可能なまちづくりを目指します。
- ・ 都市公園^{※21}・緑地、公共施設のオープンスペース^{※22}などの地域資源を活かした魅力的なまちづくりを目指します。
- ・ それぞれの地域において育んできた特色ある歴史・スポーツ・文化・産業等を活用したイベント等が行われることで地域間交流を深め、幕別地区と札内地区の地域間の調和がとれたまちづくりを目指します。

●都市と自然が融合する活気とゆとりある生活環境づくり

- ・ 自然の一部を都市に取り込んだ緑豊かでゆとりある住宅地と、駅周辺や主要幹線道路沿道において活気あふれる商業地の形成を図り、相互をつなぐ利便性の高い公共交通やバリアフリーによる歩行者空間が確保されるまちづくりを目指します。

●安全・安心による防災まちづくり

- ・ 長期的視点に立った公共施設やインフラ施設の適正な維持管理・更新、水害や地震などの災害事象ごとに対応できる避難所の確保・整備など安心な防災まちづくりを目指します。

²¹ 都市公園

都市計画決定した公園及び都市計画区域内で国や地方公共団体が設置する公園のことを言います。

²² オープンスペース

樹林地や農地、公園、緑化された土地、空き地など住宅や店舗等の建築物が立地している場所の総称です。

(4) 計画フレーム²³

①将来人口

将来人口を左右する人口動態（自然動態と社会動態）は予測し難い要素が多くあり、単に地域的な人口構造の要因だけではなく、社会の動向や町民の意識等も含め、様々な要因により推計値は変化するものと思われます。

将来人口は「国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）（以下「社人研推計」と記す。）」において、次のとおりとしています。

表 幕別町の将来人口（社人研推計）

区 分	平成 27 年	令和 2 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年	令和 22 年
15 歳未満	3,542	3,333	3,150	2,911	2,697	2,564
15～64 歳	15,193※ ¹	14,180	13,467	12,816	12,197	11,148
65 歳以上	8,025	8,837	9,320	9,622	9,757	10,093
合 計	26,760	26,350	25,937	25,349	24,651	23,805

資料：平成 27 年人口は国勢調査、令和 2 年～令和 22 年は社人研推計

※ 1）年齢不詳を含む

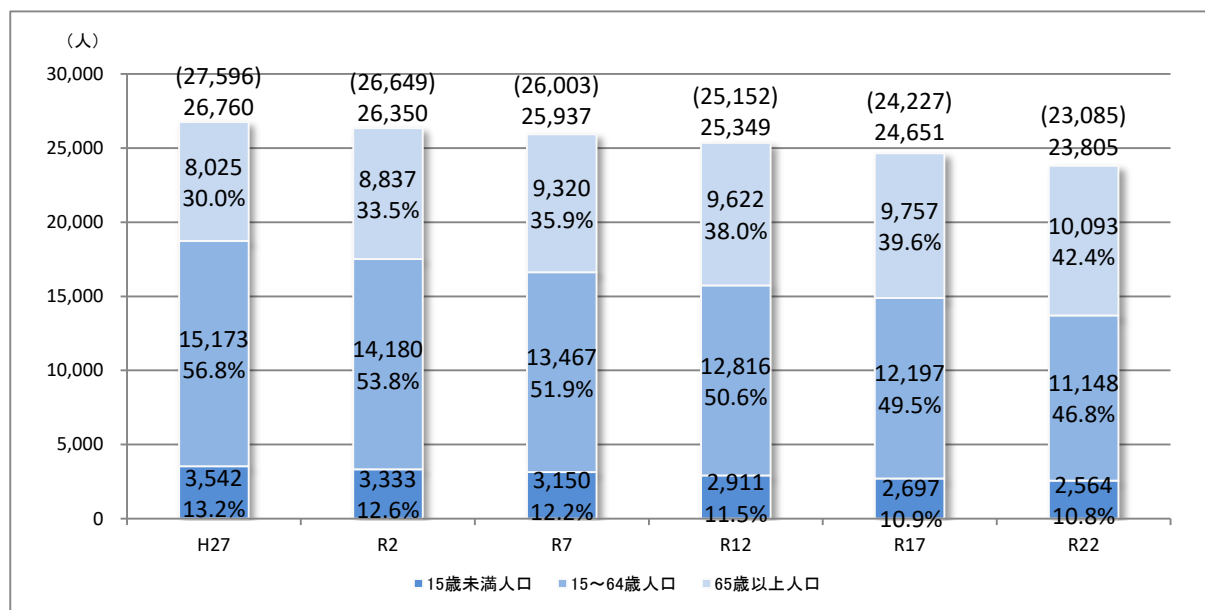


図 幕別町の将来人口（社人研推計）

※（ ）値は、幕別町人口ビジョンによる推計値。ただし、H27 人口は住民基本台帳人口（3月）

²³ 計画フレーム

町の将来の人口などの枠組みの目標値です。

（５）将来都市構造

将来都市像である「都市と自然が融合する持続可能な調和都市 まくべつ」の実現に向けて、幕別町の都市構造の主要な要素である「骨格となる土地利用」、「骨格となる交通網」及び「骨格となる緑」についてそのあり方を示します。

①骨格となる土地利用

都市計画マスタープランでは、「第６期幕別町総合計画」や「帯広圏都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」、その他関連計画との整合を図りながら社会情勢等を踏まえた適切な土地利用の形成を図り、骨格となる住宅地、商業地及び工業地を次のように配置します。

目指すべき将来都市像の実現に向けた機能的で活力ある都市空間を形成するために、市街化区域については、交通の拠点であるＪＲ駅周辺や幹線道路沿線に高齢社会への対応も見据えた商業地づくりを進め、周辺部にゆとりある住宅地の形成を図ります。さらに、工業地は住環境に配慮し市街地外縁部に配置することで、工業機能の維持、向上を進めます。

市街地を取り囲むように優良な農地が広がり、豊かな自然環境が形成されていることから、今後も農林業と調和を図りながら、幕別町の基幹産業である農業の振興を促すとともに、緑豊かな自然環境も含めて景観や保水機能等の適切な維持・保全に努めます。

②骨格となる交通網

幕別町の通勤、通学、買物及び通院などにおける生活交通は、周辺市町村の行政区域の枠組みを超えた広範囲な移動が見られることから、目指すべき将来都市像や土地利用を踏まえながら、都市生活の拠点や周辺市町村とが有機的に結ばれた交通網の整備を行う必要があります。

帯広圏の主要幹線道路は、４放射１環状^{※24}であり、これらを適正に配置することで都市軸・生活拠点連携軸・産業軸・観光交流軸を強化するものとしています。このことから幕別町に位置する放射道路である中央通（国道38号）を周辺市町村へ接続する都市の骨格軸とし、環状道路は北海道横断自動車道との連携を図ることで圏域内交通機能の向上を図ります。

また、主要幹線道路を補完し、圏域内交通に対応する都市幹線道路や、沿線の土地利用や役割に応じた格子状を基本とする都市内道路網の形成を図るとともに、国道38号と町道幕別札内線については都市内の幕別・札内両市街を結ぶ交流軸と位置づけます。

これら骨格となる道路網の形成にあたっては、既存の整備済み道路の有効活用と長期未着手となっている都市計画道路の見直し等、検討作業を適宜進めながら効率的な整備を図るほか、現在ある鉄道やバスなどの公共交通機関について、さらなる利便性の向上や移動手段の多様化についても適宜検討を進め、都市内外の円滑な交流と連携のための交通ネットワーク形成を図ります。

²⁴ ４放射１環状

帯広圏の主要幹線道路の配置形状を表現した言葉で、４放射の放射道路は、北は一般国道241号、南は一般国道236号、東西は一般国道38号の３路線で構成されています。１環状の環状道路は、主要道道幕別帯広茅室線を中心に複数の道道により構成され、帯広圏を環状に結ぶ道路整備計画を指します。

③骨格となる緑

幕別町は北が十勝川、西は札内川が流れ、十勝川の支流である猿別川、途別川などによって潤いある河川空間が形成されています。また市街地の周囲に動植物が息づく丘陵地の緑と、豊かな実りを育む農地が広がっており、自然環境に恵まれています。

このような緑豊かな環境を将来にわたって維持、形成していくことは町民の生活に潤いや安らぎを与えてくれます。

環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能及び景観構成機能を強化してゆとりある住環境を形成するため、その拠点となる総合公園及び地区公園などの都市公園や、十勝川水系河川緑地などの都市緑地とこれらをつなぐ役割を持つ河畔林や河岸段丘などの緑を、幕別町の骨格となる緑と位置づけます。

幕別町における緑の保全と創出については、「幕別町緑の基本計画^{※25}」の考え方を踏まえて、緑あふれる快適な都市環境を創造していきます。

○幕別町緑の基本計画の基本理念と基本方針

基本理念

「緑と人が調和するまち まくべつ」

基本方針

「緑を守る」

町民共有の財産である豊かな自然環境の保全を図ります。

「緑を使う」

緑が持つ多面的機能を最大限に活用したまちづくりを目指します。

「緑を育む」

住民と行政がともに緑の価値を学び、後世に伝えていきます。

²⁵ 緑の基本計画

緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策、公園の整備・管理方針などを定める基本計画です。これにより、緑地の保全及び緑化の推進を総合的、計画的に実施するものです(都市緑地法第4条)。

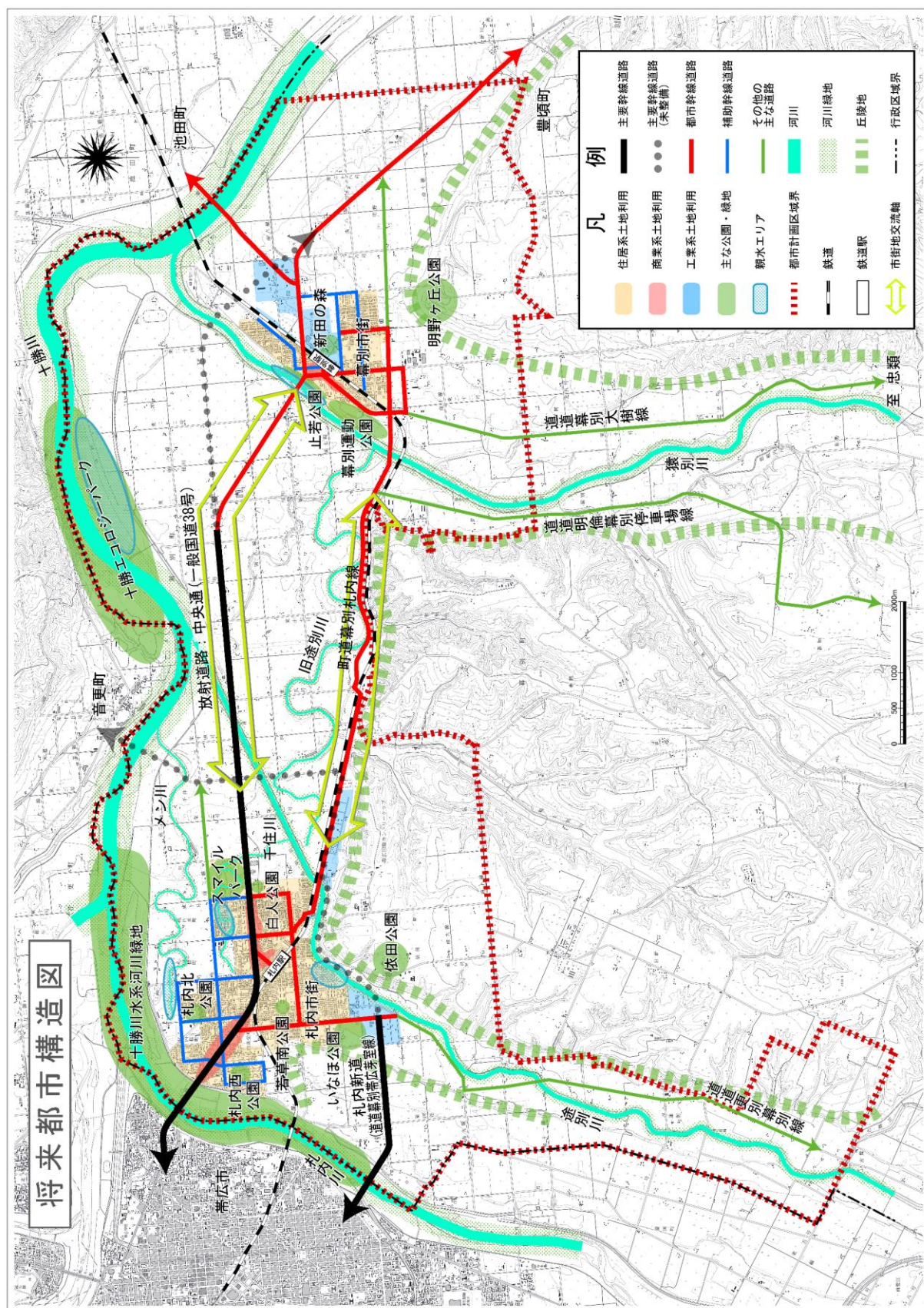


図 将来都市構造図